

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2020-3003	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	TMM地域住民コホート調査のうち健診参加型調査参加者約67,000人とIMMのサテライト参加者約8,300のコホート情報、ゲノム情報、オミックス情報	
主たる研究機関	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	岩手医科大学医学部	
研究題目	社会的孤立とその関連要因の検討、および関連する遺伝的多型の同定			研究期間	2020年3月23日～ 2022年3月31日	
実施責任者	丹野 高三	所属	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構		職位	特任教授
研究目的と意義	社会的孤立は、人付き合いの希薄さが原因の一つと言われており、自分から一方的に関係を断ち切り、自分の意思で孤立することをあえて選択するという行動側面を持っていることが知られているが、遺伝的背景は明らかになっていない。本研究では東日本大震災被災地における社会的孤立とその関連要因を明らかにするとともに、その遺伝的背景を明らかにすることを目的とする。					
研究計画概要	社会的孤立はメンタルヘルスだけではなく、循環器疾患やメタボリックシンドロームとの関連、健康リスクとの関連が注目されている。またUKバイオバンク研究参加者487,647人を対象としたGWASでは、ゲノム上の15か所の座位における遺伝的変異が社会的孤立に関連していること、またこれらの遺伝的変異が神経症傾向や主観的幸福といった精神的・心理的形質、BMIのような身体的形質に影響を及ぼすことが報告され、社会的孤立、メンタルヘルス、および心血管代謝との間に遺伝的連関が成立している可能性が示唆されている。 そこで本研究ではTMM地域住民コホート調査のうち健診参加型調査参加者約67,000人とIMMのサテライト参加者約8,300のコホート情報、ゲノム・オミックス情報を用いて、社会的孤立とその関連要因の検討、及び、遺伝的相関を検討する。					
期待される成果	東日本大震災被災地において社会的孤立の増加が問題となっている。その関連要因を明らかにすることで、社会的孤立に伴う閉じこもりや虚弱状態、健康状態の悪化に対する支援や予防活動に資することが期待される。また社会的孤立の遺伝的ハイリスク群を明らかにすることで社会的孤立の早期予防および、医療的支援・心理的支援方法の提案などに繋がることが期待される。					
これまでの倫理 審査等の経過	東北メディカル・メガバンク計画全体計画に含まれている。 岩手医科大学医学部倫理委員会で承認されている。(HGH25-2及びHG2018-004)					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	岩手医科大学いわてメディカル・メガバンク機構匿名化解析室内への入室を許可された者が同室内のみで、匿名化されたデータを用いて解析し、集計データのみを公表する。					
その他特記事項						
* 公開日	令和2年7月22日					